

G I G Aスクール環境下における体育授業の充実 実践研究校 研究報告

表現遊び

山口市立大歳小学校（山口県）

電話番号 083-922-2466

メールアドレス ootoshi-e@yamaguchi-ygc.ed.jp

●実践研究のねらい

- 身近な題材の特徴を捉えて、そのものになりきって踊る楽しさや友達と関わりながら踊る喜びを味わい、夢中になって取り組もうとする授業

●具体的な活用方法

- 《協働的な学び》 学びの基礎となるデジタル教科書
- 《協働的な学び》 意見・回答の即時共有を通じた効果的なグループ別学習

●指導の工夫

1 一人一人の学びを保障する単元計画

生活科で見た生き物や、写真や動画で見た乗り物を題材にすることで、一人一人が題材の特徴を捉えて表現遊びを楽しむことができるように工夫した。

2 仲間との協働的な学びを旺盛にする働きかけ

なりきっている様子をカメラで撮影して、全体で表現を見る機会を設定することで、友達に真似をして表現したいという思いや、多様な表現の仕方などを確認することができるように工夫した。

●授業の様子



【身近な題材をICT機器で表示】

社会見学で行ったサファリランドの生き物などの子どもの関心の高い題材をICT機器で表示



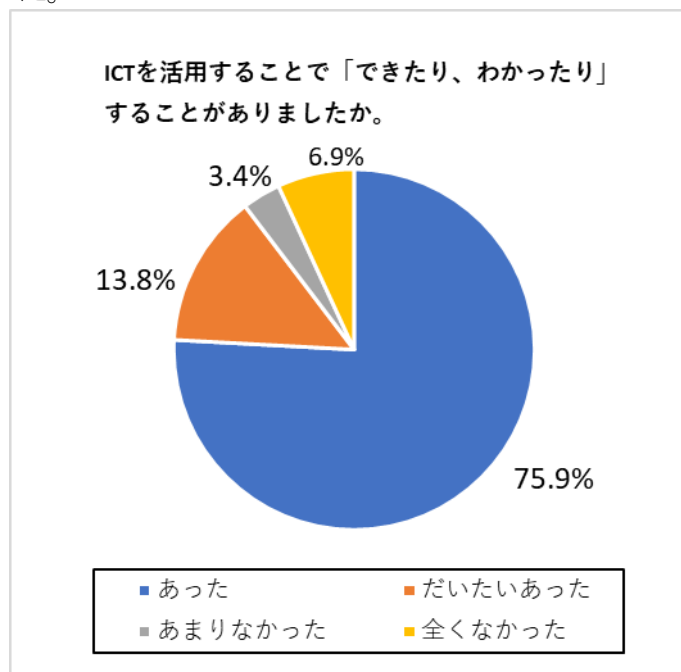
【表現した動きの共有】

活動の振り返りで、面白い動きや工夫した動きを全体で共有

●児童生徒の資質・能力の育成状況、取組み方や意識の変容など

【児童生徒の資質・能力の育成状況】

- ICT機器を活用することで、「できたりわかったりすることがあった」「できたりわかったりすることがだいたいあった」と回答した生徒が89.7%であり、知識及び技能の習得に効果があった。



【取組み方や意識の変容】

- 低学年においても、人前では恥ずかしくて踊れない子どもの姿が見られるが、互いの表現を認め合う場面を設定することで、なりきって踊る楽しさや友達と関わる喜びを感じながら活動する子どもの姿が多く見られた。

●成果

- ICT機器を活用し、前時の活動写真や振り返りを本時のめあてや活動につなげるという学習の流れを一貫して行うことで、子どもの「やってみたい」「次はこうしたい」という思い（課題）が次時につながっていくサイクルで学習を進めることができた。
- 毎時間、活動を振り返って友達に伝える活動を設定する際、ICT機器を活用して面白い動きや工夫した動きを全体で共有することができた。

●課題

- 教師が子どもに動きを教える活動は、運動が苦手な子どもにとっては安心につながるが、一方でその動きにとらわれてしまい動きが広がりづらくなることもある。単元レベル・授業レベルで教師主体と子ども主体のバランスの取り方が課題である。